

大阪市立 長原小学校



住所 〒547-0013 大阪市平野区長吉長原東 3-10-9

連絡先 ☎ 06-6708-0105

☎ 06-6799-0401

校長 藤松 大樹

開校 昭和 45 年

URL <https://swa.city-osaka.ed.jp/e751732>



運営に関する計画

【現状と課題】

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿とは、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することである。

これまでの「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら一つのチームとしての学びを高めていくことが重要である。誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、一人一人の児童が生涯にわたって能動的に学び続けることをめざしていく必要がある。

本校の学校教育目標は、「子どもも大人もいきいきしている学校」であり、めざす子どもの姿は、「自分も人も大切にすること」、「自分で考え、行動すること」、「自分からチャレンジすること」である。

こうした「めざす子どもの姿」を常に意識しながら、教科指導や生活指導など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて教育活動を進めていく。そして、「めざす学校の姿」は「学校と家庭と地域がひとつになって『自己肯定感』をもつ子どもを育てる教育活動を推進すること」である。「自己肯定感」や「自己有用感」をもつことはとても大切な課題である。「授業を開く」や「地域に開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須である。常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

運営に関する計画

【年度目標】

【安全・安心な教育の推進】

- 令和8年度の全国学力・学習状況調査の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 令和8年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがありますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 令和8年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和8年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和8年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和8年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和8年度の小学校学力経年調査の「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3日以上と回答する児童の割合を75%以上にする。
- 時間外勤務時間数が年720時間を超える教員を毎年ゼロにする。
- 令和8年度末の学校アンケート（サポーター）において「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている」の項目について肯定的に回答する割合を95%以上にする。
- 令和8年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的な回答をする教職員の割合を90%以上にする。

令和8年度「みんながつくる みんなの学校 長原小」の教育

＜大阪市教育振興基本計画（4年間R8～R11）の最重要目標＞

1「安全・安心な教育の推進」 2「未来を切り拓く学力・体力の向上」 3「学びを支える教育環境の充実」

学校教育目標 **子どもも大人もいきいきしている学校**

キーワード「笑顔」で「元気」に「楽しく」

子どもに育みたい「3つの力」

自分も人も大切にすること

- 自分の思っていることを素直に言うことができる。
- 人にやさしく、思いやりを持って、接することができる。

自分で考えて、行動すること

- どんな時でも、自分ならどうするかを考えることができる。
- 自分から進んで、見たり、聞いたり、話したりすることができる。

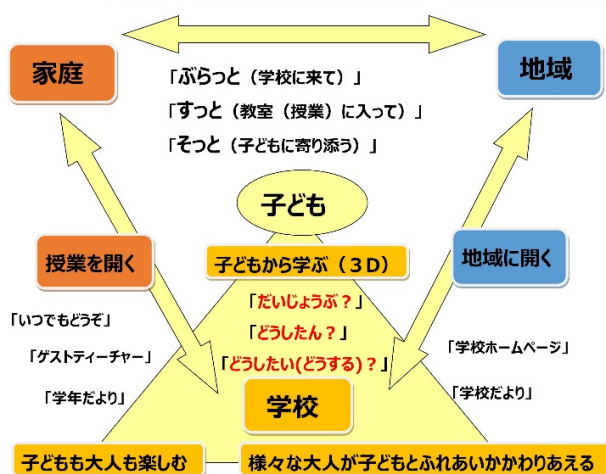
自分からチャレンジすること

- 失敗をおそれずに、チャレンジすることを楽しむことができる。
- 新しいことや、好きなことにチャレンジすることができる。

めざす大人の姿

- 子どもから学ぶ大人** ……「3つのD」で子どもを受け止め、信じて任せる大人
- すべての子どもを見守る大人** ……子どもを多面から見つめ、違いを認め合える大人
- できないことは人の力を活用する大人** ……何事も抱え込まず、チームで動く大人

めざす学校の姿 学校・家庭・地域がひとつになって「自己肯定感」をもつ子どもを育てる教育活動を推進する。



R7年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	理科	平均正答率(%)
61	49	47	

●結果と概要／

・国語は平均正答率61%で、大阪市平均より約4ポイント低い。語彙力や図表の読み取りには一定の力がある一方で、「読むこと」に関する設問では大きな課題が見られた。また、記述式問題では無解答率が高く、書くことへの抵抗感がある。

・算数については、平均正答率49%で大阪市平均より約9ポイント低い。特に「測定」や「分数の加法」に関する問題で課題が見られた。

・理科は平均正答率47%で、大阪市平均より約8ポイント低い。特に「粒子」や「生命」に関する領域で理解が浅いことが課題となっている。また、記述式問題の無解答率も高い。

●取組の成果と課題／

[国語] 言語力や論理的思考を高めることをめざし、自分の考えを持ち、意見を述べる、書く、まとめる活動を継続して行った。また、異年齢グループでサークルをつくって「哲学対話」をするなど、話し合い活動に重点的に取り組んだ。「話すこと・聞くこと」に関しては、全国平均に近い正答率を記録しており、対話的な活動における理解力は安定してきた。

[算数] 毎日のドリルタイムの時間を使って基礎基本の定着を図るようにしている。「数と計算」や「変化と関係」に関する問題では全国平均に近い正答率を示しており、計算力や数量関係の理解には一定の成果が見られた。

[理科] 理科専科教員による充実した理科の授業を行うことで、観察技能の高まりがみられた。一方で、記述問題では無解答率が高く、結果をもとに理由を説明する力に課題が見られる。単なる正解を求めるのではなく、「なぜそう考えたか」「どう説明するか」を重視した活動を取り入れ、自分の考えを言語化する力を高められるようにしたい。

R7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計 得点(点)
男子	14.75	20.08	29.38	34.85	43.15	9.95	133.25	21.58	46.64
女子	14.43	11.63	27.75	30.50	31.38	9.67	124.38	12.38	43.83

●結果と概要／

男女とも大阪市平均を下回った。特に、女子の低さが顕著であり、基礎体力の向上が急務である。1週間の総運動時間が少なく、日常的な運動機会の不足がうかがえる。アンケートにおいて、「体育の授業は楽しいですか」の質問に「楽しい」と答えた割合は、男子100%、女子87.5%で、授業自体の楽しさは確保されている。特に「どんな時に体育の授業が楽しいと感じますか」の質問に「できなかったことができるようになったとき」と答えた児童が多く、成功体験が学習意欲の源となっている。

●取組の成果と課題／

学校質問紙調査からは、教育目標に基づく組織的な授業改善や、データに基づくPDCAサイクルが機能していることが確認できる。ICTの活用については、全学年での活用には至っていない。動きの可視化は技能向上に効果が高く、今後の重点化が望まれる。

取り組むべき課題としては、体幹・柔軟性・跳躍力の向上を図る系統的な単元構成の構築。休み時間や長原タイムを活用しての運動機会の確保と運動習慣の定着。個別最適な課題設定や段階的な技能習得を意識し、児童の成功体験を生む授業デザインの推進などが挙げられる。また、家庭との連携も不可欠で、家庭で取り組める運動の提案を行い、生活習慣の改善を支援できるようにしたい。

学校の特徴

長原タイム

- 子どもにつけたい「3つの力」を高める学び
- 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現（自由進度学習・探究学習・縦割り活動など）
- 主体的・自律的に行われる教師の学び
- 変化を前向きに受けとめて、常に学び続ける教師の学び
- 教師一人ひとりが当事者意識を持って、学びの楽しさを追究する学び

学校・家庭・地域がひとつになるための取り組み

長原チャンネル

長原フェスティバル

長原ファーム

長原マート

長原フラワーガーデン

長原レンジャー

長原こども記者

長原こども NAVI

哲学対話

長原わいわいフェスタ

長原ふれあい広場

長原パーティー

長原オープンスクール

40分授業午前5時間制&複数担当制&教科担当制

午前は教科学習を、午後からは探究学習と学びのモードを切り替え、学習時間を設定しています。学級を2人で担当したり、低学年から教科担当制を取り入れたりして、様々な大人が子どもたちに関わることができる体制をつくります。

これらの目的は、「子どもから学ぶ大人」「すべての子どもを見守る大人」「できないことは人の力を活用する大人」の実現です。多くの大人が子どもたちに関わることで、様々な視点から子どもたちを見ることができ、子どもにとっての安心感を生むことができます。また、教員にとっても一人で抱え込むことなく、チームで子どもに関わることができるように、教科指導の負担感も減り、働き方改革にもつながります。

平野支援学校との交流

平野支援学校と連携し、両校の子ども達の様々な交流を深めるとともに、障がいに対する理解を深め、互いの違いを認め合い、命を大切にする思いやりのある豊かな心情の育成に努めています。



校長先生からのメッセージ

本校のスローガンは「みんながつくる みんなの学校 長原小」そして、「みんな」とは「自分」です。「子ども」「サポーター（保護者）」「教職員」「地域」など、学校にかかわるすべての人のことです。「子どもにとっては、自分が通いたい学校を自分がつくる」「サポーターにとっては、自分の子どもを通わせたい学校を自分がつくる」「教職員にとっては、自分が働きたい学校を自分がつくる」「地域にとっては、地域の宝である子どもが通う地域の学校を応援したくなる学校を自分がつくる」「子どもも大人もいきいきしている学校」をめざして、教職員はひとつになって学校運営を進めていきます。ぜひ、子どもたちのために、ともに学校をつくっていきましょう。

校長 藤松 大樹